

## わたしたちの物語 〈今のわたしに生きること〉

K・Aさん(九十一歳) & 昭和女子大学 実習生

生まれはね。はい、北区。

今考えてみれば、人生勉強しましたね。人間のいろんなことをね。

自動車部品とかね、そういう部品を作る会社。

その頃はまだね、日本が高度成長期でもってね、上り坂で、

物を作れば売れる時代で、

私はその時外回りしてね、仕事をね、いただいて帰らないと。

私が変わること喋って、その仕事断られたらね、会社みんなダメなっちゃう。

もう考えましたね。仕事っていうのは、いい仕事をやるのがもちろん大事だけど、

私という人間をね、認めてもらえることが一番大事だと思いましたね。

その時、勉強しましたよ。

ああ、営業っていうのは、品物売るんじゃなくてね、人間を売るんだと。

いや、私、つくづく思いました。

仕事をやるってことは、良い品物作るのは当たり前だけど、そういう心のこもった仕事ね、

そうすればきつと信頼してくれて、自分を認めてくれて、仕事をもらえる。

「桃李不言下自然成蹊」

これもね、何で見たかね。中国の偉い先生が書いた言葉だけどね。

桃とか杏の花はね、何にも言わないでしょ。

何にも言わないけど、多くの人がお花を見に来て自然にね、道ができる。

なんでかというと、桃の花つてすごく綺麗でしょ。

町中の人かね、桃の花が綺麗だつて、そこ見に行くわけですよ。

山登つてね、歩いていく。道でないところを人が歩くもんだからね、

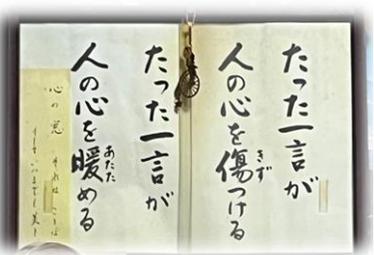
自然と道ができる。これが直訳。

だから、人間っていうのはね、自分が一生懸命信念持って生きていけば、

人が自分を尊敬してね、何にも言わなくても、人々が集まってくる、

最後にはちゃんと道ができる。そういう意味ですよね。

私はね、これはすごい粹だなどと思つてね、書いておいてね、置いとくんですよ。



やっぱり人間ってのは、そういう言葉大事ですね。

それこそ自分がそういう気持ち持っていれば、自然と伝わるんじゃないかと思って。

尚道手をつなぐ会 たいよう事業所

最初、手をつなぐ親の会っていつてね、やっぱり障害児の親がね、子どもたち、それどうしようって考えながらねそういう集まり作ってね、一生懸命やってみましたね。

その時に、子どもが学校、その時は特殊学級って言ってたんですよ。

その学校、卒業してもね、今度行くところない。今はその作業所があるでしょ。

(当時は)なかったから、しょうがなくて、障害児の親たちでもつてね、作らなきゃダメだって。

その時はね、まだ世の中でね、理解が足りなくてね、誰も相手にしてくれなかったんで、不動産会社のお店回つてね。玄関先をね、貸してくるようになったんです。

そこでね、当初六人の子どもが集まってるね、そこで、始まったの。

王子二丁目の出張所の跡を借りたり、桐ヶ丘の保育園の跡を借りたりね、滝野川の出張所の跡を借りたりしてたんですよ。

それが成長して、あの尚道手をつなぐ会 たいよう事業所って。

もう四十年なんだ。今年の五月でやつとね、役職引退しました。

教育っていうのは、学校行つて、教室でも、先生の話聞いて、本を読んで、

上から教えられてね、そこで学ぶことも大切なんだけど、先生が言うにはね、教育っていうのは、その子どもね、能力をね、引き出して育てることが教育だ。

これがね、やつぱは生きてますよ、授業に。

令和七年八月十九日

